



犀陵だより

第13号 平成27年3月19日

職員室の前から見える中国の石家荘市から贈られた梅の花がほころび始めてきました。いつの間にか、春がそこまで来ています。

本日190名の卒業生を送り出すことができました。保護者の皆様、地域の皆様をはじめ多くの方々にたいへんお世話になりました。本当にありがとうございました。平成26年度は、力あふれる1年生、団結力の2年生、そして、頼れる3年生のがんばりでいくつもの成果が上がった年でした。平成27年度へ向けて職員一同さらなる高みを目指して頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

【校長講話より（抜粋）】

今日で3学期が、そして、平成26年度が終わります。この一年間は、皆さんにとってどんな年だったでしょうか。昨年の4月に立てた一年間の目標・計画は、どのくらい達成されたでしょうか。自分が納得できるような充実した一年間だったでしょうか。それとも不完全燃焼に終わってしまった一年間だったのでしょうか。

勉強というものは、おもしろおかしく、お笑い番組を見るような調子でできるものではありません。学問を深めようとすればするほど、学ぶ厳しさに直面します。その厳しさに押しつぶされてしまえば、そこでおしまいです。分からないことを分からないままにしておいたら「知る」というチャンスを失ってしまいます。理解しよう、調べてみようという意欲がなければ、自分を大きく育てることはできません。これは、「部活動」でも「社会体育」でも「習い事」でも、すべてに通じることです。

『充足の思いに浸れる』というのは、そうした学ぶ厳しさを乗り越えることで初めて得られるものだと思います。

ヘミングウェイが書いた「老人と海」という小説があります。小舟で沖へ漁に出た老人は、釣り糸に大きな手ごたえを感じます。大きな魚がかかり、老人は数日にわたってその魚と格闘を繰り返します。やっと捕まえた魚は老人の小舟には乗せることができないほどの大きさで、小舟の脇にくくりつけて港へ向かうことにしました。途中、その大きな魚に鮫が何度も襲ってきます。老人はそのたびに死にものぐるいで鮫と戦うのですが、最後には、魚は骨だけにされてしまいます。港に帰り着いた老人は、魚や鮫との激しい格闘に疲れ果て、深い眠りに落ちていきます。

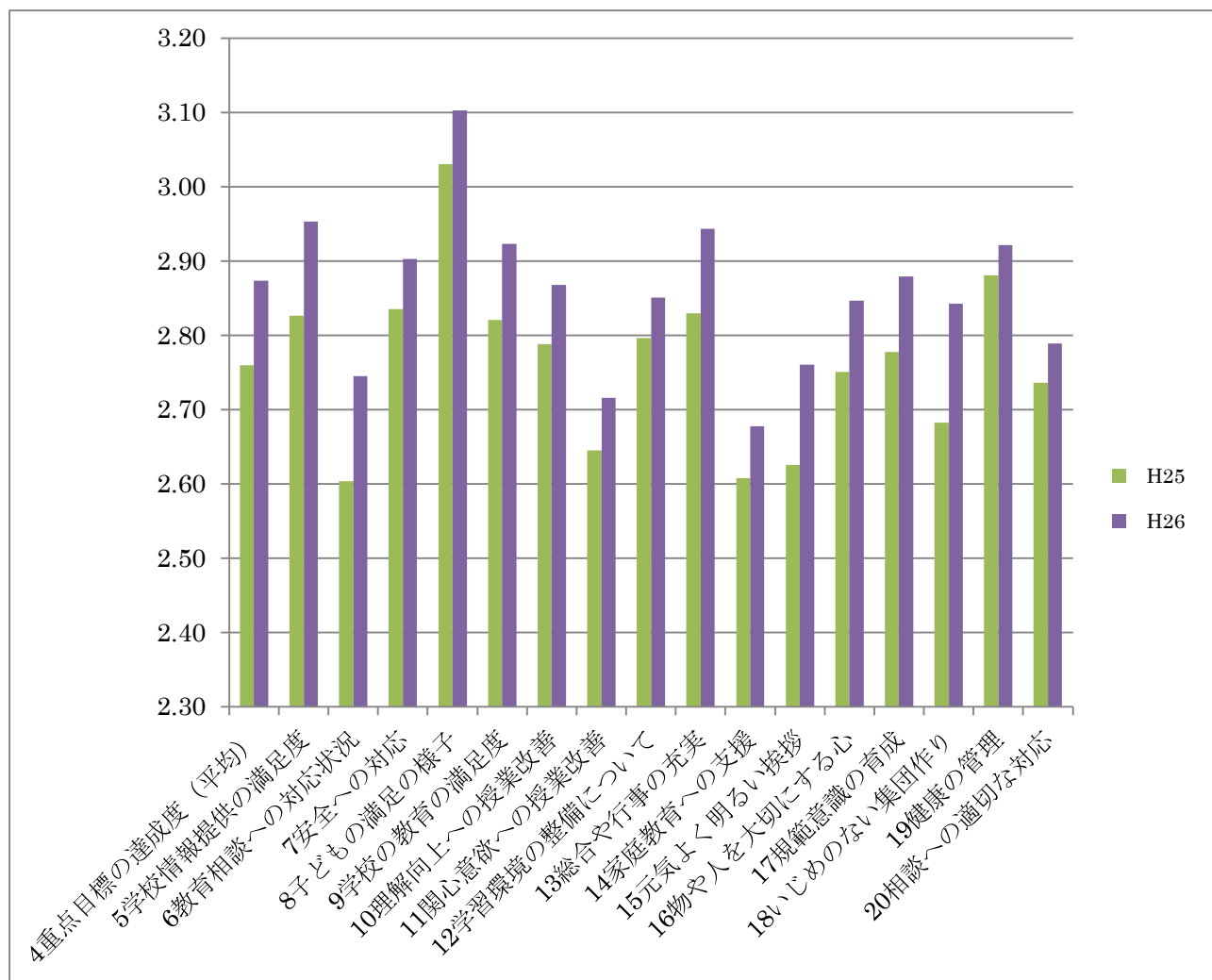
深い眠りについた老人は、魚は食べられてしまったのですが、力の限り戦った満足感に包まれていたように感じます。これが『充足』であります。

もう一度、今年度を振り返ってください。充足した一年間であったかどうか、自分に問いかけてみましょう。もし、そこに失敗があれば、悔いが残るようであれば、それを繰り返さない工夫をすることが大切なのです。来年度のキーワードは『文武両道』。卒業する3年生も含めて、次の一年間をより良い一年間にしてほしいと願っています。

明日の卒業式を終えると17日間の春休みに入ります。春休みはとかく気持ちがフワフワして思わぬ事故も起こりがちです。交通事故などに遭わないよう気をつけてください。

- ・ 充足
- ・ 勉強、部活、習い事
- ・ 「老人と海」魚と鮫
- ・ 文武両道

【学校評価結果】



*昨年度に比べて評価が上がり、嬉しいことです。しかし、授業力を向上させること、家庭学習の充実を図ること、地域でのあいさつ、性との悩みに誠実に相談できているか等、さらに努力しなければならない点についてもご指摘をいただきました。ご多用の中ご協力いただきありがとうございました。

*また、犀陵中学校では、職員会の中で、生徒や保護者の皆様の信頼に応えるため、「非違行為は絶対しない」を合い言葉に様々な研修を行い、今年度も非違行為0で終わろうとしています。今後も職員一人ひとりが自覚を持って努めていきたいと思います。